

ITU-R SG 7 WP 7A 会合(2026 年 3 月)

報告書(案)

1. 会合の名称

ITU-R Study Group 7(SG 7)

Working Party 7A(WP 7A:標準時及び標準周波数の通報業務に関する作業部会)

2. 開催日程

2026 年 3 月 2 日(月)～3 月 6 日(金)

3. 開催場所

スイス連邦ジュネーブ ITU 本部及びリモート会議

4. 会合の位置づけ、参加者及び入力文書

WP 7A は、科学業務を扱う第 7 研究委員会(SG 7)の作業部会であり、標準時及び標準周波数の通報業務を扱っている。

WP 7A 会合は、J. Achkar 氏(フランス)が議長を務め、今会合においては、表 1 に示す Drafting Group (DG)が設置された。

各国の主管庁や他団体及び ITU 事務局から合計 26 名が出席した。日本からは、表 2 に示す 2 名が出席した。

本会合においては、14 件の入力文書について審議が行われ、計 5 件の出力文書が作成された。

表 1 WP7A の審議体制

WP/DG		検討案件	議長
WP 7A Plenary			J. Achkar 氏(仏)
DG-1		WRC-27 議題1.15関係	J. Pla(仏)
DG-2		ITU-R 勧告 TF.460	W. Lewandowski(波)
DG-3		Handbook	A. Bauch(独)
DG-4		ITU-R 勧告 TF.374	F. Arias(仏)

表 2 日本からの出席者(敬称略・順不同)

氏名		所属
1	糸 将之	総務省 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
2	飯塚 悠太	総務省 総合通信基盤局電波部基幹・衛星移動通信課
3	岩間 司	情報通信研究機構
4	伊東 宏之	情報通信研究機構

5. 審議の内容

【WP7A プレナリでの審議】

J. Achkar 氏(仏)が議長を務め、プレナリに割り振られた入力文書、各 WG からの出力文書について審議した。審議文書と結果を表 3 に示す。

表 3 プレナリで審議された出力文書と結果一覧

文書番号 7A/TEMP/*	題目	入力文書 7A/**	審議結果
12	Proposed draft revision of Recommendation ITU-R TF.374-6 - Precise frequency and time signal transmissions	7A/63	SG7 に送付
13 Rev.1	Proposed modifications and additions to the working document towards a draft revision of Recommendation ITU-R TF.460-6 - Standard-frequency and time-signal emissions	7A/51, 61, 64	議長報告に貼付
14	Reply liaison statement to Working Party 7B regarding relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.15 - Technical information on standard frequency and time signal-satellite service in the 400.05-400.15 MHz band	7A/52, 59	WP7B に送付
15	Draft revision of the Handbook Selection and Use of Precise Frequency and Time Systems	7A/58, 62	SG7 に送付
16	Draft liaison statement to ITU-T SG15 Q13 - Information about an updated version of the Handbook on Selection and	7A/58, 62	ITU-T SG15 Q13 に送付

文書番号 7A/TEMP/*	題目	入力文書 7A/**	審議結果
	use of precise frequency and time systems		

【主な議論】

(1) プレナリに割り振られた入力文書

- ・ 前回 WP7A 会合議長報告(7A/51)

Handbook の完成や ITU-R 勧告 TF.460 に関する議論の進展によりその役割が失われたことから、前回議長報告に貼付された UTC に関する暫定新報告書案は破棄された。

(2) WP7A 外へ出力する文書の検討

- ・ Proposed draft revision of Recommendation ITU-R TF.374-6 - Precise frequency and time signal transmissions(7A/TEMP/12)
 - 勧告案 ITU-R TF.374-6 を承認し、SG7 へ送ることとした(⇒ 7/47)。
- ・ Reply liaison statement to Working Party 7B regarding relevant technical information to support studies under WRC-27 agenda item 1.15 - Technical information on standard frequency and time signal-satellite service in the 400.05-400.15 MHz band(7A/TEMP/14)
 - AI.1.15 に関する WP7B へリエゾン返書を承認し、WP7B へ送ることとした(⇒ 7B/235)。
- ・ Draft revision of the Handbook Selection and Use of Precise Frequency and Time Systems(7A/TEMP/15)
 - ハンドブックの更新を承認し、SG7 へ送ることとした(⇒ 7/50)。
- ・ Draft liaison statement to ITU-T SG15 Q13 - Information about an updated version of the Handbook on Selection and use of precise frequency and time systems(7A/TEMP/16)
 - ハンドブックの更新を通知し、継続的な協力を期待するリエゾンを ITU-T SG15 Q13 へ送ることとした(⇒ T25-SG15-260629-TD-WP3-0194)。

(3) WP7A にて更なる検討を要する文書の検討

以下の文書を議長報告書に添付し、継続審議とすることとした。

- ・ Proposed modifications and additions to the working document towards a draft revision of Recommendation ITU-R TF.460-6 - Standard-frequency and time-signal emissions (7A/TEMP/13 Rev.1)

(4) 次回会合の日程

- ・ 2027 年春

以下に各 DG の審議内容を報告する

5.1. DG-1:議題 1.15 関係

J. Pla 氏(フランス)が議長を務め、責任グループである WP7B へ送るリエゾン返書について審議した。

【主な検討案件と審議結果】

1. WRC-27 議題 1.15 に関して責任グループである WP7B へのリエゾン文書案を WP7A プレナリに上程した。

入力文書: 7A/52(WP7B)、59(WP7B)

出力文書: 7A/TEMP/14

【主な議論】

- WRC-27 議題 1.15 では、静止軌道以遠の宇宙研究業務及び宇宙運用業務等について検討を行っている。
- 前回の WP7A 会合(2025 年 3 月)以降、WP7B は WP7A 会合が開催されなかった 9 月にも会合があったため議題の進捗を知らせる 3 月と 9 月の 2 件のリエゾン文書について確認を行った。
- 次に DG 議長から一次業務である 400.05~400.15MHz 帯における標準周波数及び、標準時の衛星通報業務(SFTSS)の保護に留意してもらうリエゾン返書案が提示され議論を行った。
- 参考データとしてリエゾンに掲載されている衛星のデータについて米国などからいくつか質問があったが、特に内容を変更するようなコメントはなかった。
- 最終的にリエゾン返書案は DG で承認され Temp 文書として WP7A プレナリに送られた。

5.2. DG-2:TF.460

W. Lewandowski 氏(ポーランド)が議長を務め、ITU-R 勧告 TF.460 の改訂について審議した。

【主な検討案件と審議結果】

1. 勧告案 ITU-R TF.460-6 について議論し、2026 年の国際度量衡総会での採択を待つ箇所を除き、おおその改訂作業を完了して WP7A プレナリに上程した。

入力文書: 7A/ 51, 61, 64

出力文書: 7A/TEMP/13 (Rev.1)

【主な議論】

- Recognizing
 - 2 の definition を specification に変更した
- Recommends
 - 7 について further を削除して and revised as needed を追加した
 - 12 について”(TBD)” を” between UT1 and UTC exceeding 1 s” に修正した
 - 12 について CGPM 2026 がまだ開催されていないことの扱いが議論になったが、すでに確定した事実に基づき”the draft resolution C to the 28th CGPM (2026) proposes …”という記述で合意した。
- Annex 1
 - A で deprived を corrected に修正
 - E1 で should から文末までを will follow the decision if the CGPM と入れ替えた
 - E2.1 について次の文章に修正された。”The maximum allowable difference between UTC and UT1 is governed by the resolutions of the CGPM.”
 - E2.1 について DUT1 に許容される最大値に関する疑義が呈されたが、これは CGPM で決定される事項であり ITU-R では議論の対象ではないということが再度確認された
 - E4.3.2 に” In the case that I and XUT1 are disseminated independently, the complete value $DUT1 = I + XUT1$ is to be used.”という Note を追加
- Annex 4
 - XUT1 が 0.9 または-0.9 になる場合の説明を追記
 - E4.5 に記載の D4.3 と D4.4 を E4.3 と E4.4 に修正

5.3. DG-3:Handbook 関係

A. Bauch 氏(ドイツ)が議長を務め、コレスポンデンスグループ(CG)の努力によって完成した Handbook: Selection and Use of Precise Frequency and Time Systems の改訂案について審議した。

【主な検討案件と審議結果】

1. Handbook: Selection and Use of Precise Frequency and Time Systems の改訂案を完成させて WP7A プレナリに上程した。
2. 関係する ITU-T SG15/Q13 へ送付する新しいハンドブックが完成した由のリエゾン文書案を WP7A プレナリに上程した。

入力文書: 7A/58(CP 議長)、62(アメリカ)

出力文書: 7A/TEMP/15, 16

【主な議論】

- 1. Handbook: Selection and Use of Precise Frequency and Time Systems は、今会期中に改訂版を完成させることを目指して設立した CG を中心に精力的に改訂作業を行ってきた。今回、改訂案が完成し 7A/58 として入力され WP として審議を行った。
- 第 1 章について、特に質問・コメント等なし。
- 第 2 章
 - CG の co-chair である F. Arias 氏から 2 章の修正版が提示
 - 基本はエディトリアルなものだが、2.3.2.3 項など 2 か所ほど修正を加えた。
- 第 3 章～5 章について、特に質問・コメント等なし。
- 第 6 章では WP7A 議長の Achkar 氏とこの章の執筆者の一人であるフランスの M. Lipinski 氏から補足のコメントがあった。
- 第 7 章および 8 章について、特に質問・コメント等なし。
- 第 9 章では「秒の再定義」についての項目があり、BIPM から秒の再定義についてのロードマップが記載してある URL について紹介があった。
- 第 10 章について、特に質問・コメント等なし。
- 全体について執筆者である M. Lipinski 氏、アメリカの J. Levine 氏から補足コメントがあった。
- F. Arias 氏から目次の統一などについてコメントがあった。
- 以上のコメント等を受け本文の修正案を作成して確認を行った。
- 最後に関係する ITU-T SG15/Q13 へ新しいハンドブックが完成した由、リエゾンを送るため文書を作成し確認した。
- 確認した改訂案は DG で承認され Temp 文書として WP7A プレナリに送られた。

5.4. DG-4:TF.374

F. Arias 氏(フランス)が議長を務め、ITU-R 勧告 TF.374 の改訂について審議した。

【主な検討案件と審議結果】

1. ITU-R 勧告 TF.374 に関して 2014 年以降の無線通信規則の改訂に沿った改訂案を作成し WP7A プレナリに上程した。

入力文書: 7A/63(フランス)

出力文書: 7A/TEMP/12

【主な議論】

- Considering
 - a)に Region 3 における次の周波数帯を追記
3,995-4,005 kHz、7,995-8,005 kHz、15,995-16,005 kHz
 - d) にポーランドの PCSK225 を追記(255 kHz)
 - イギリスから e-Loran に関する記述がないことに関する疑問が出され、イギリスが e-Loran の現状について確認することになった。
- Recommendation
 - 新しいハンドブックの内容に沿って、ハンドブックに関する記述の削除が提案されたが、その後の確認で新しいハンドブックにも対応する記述があることがわかり削除は元に戻された。
- 表紙等の体裁を整え e-Loran の現状についてイギリスの確認を取ったうえでDGとして改訂案が承認され Temp 文書として WP7A プレナリに送られた。